

(トップページ：<http://mylibrary.maedal.jp/> )

(GDP (IMF WEO)：<http://mylibrary.maedal.jp/GDP.html> )

マイライブラリー：0588

(注)本稿は2023年10月26日から30日まで5回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2023.11.7

前田 高行

### 全世界の成長率は今年3.0%、来年2.9%：IMF世界経済見通し

IMF(国際通貨基金)が「世界経済見通し(World Economic Outlook、October 2023)」(以下、WEO)を発表した。このレポートでは全世界、EU、ASEANなどの主要経済圏及び日米中印など主な国々の2022年(実績)から2024年(予測)まで3年間のGDP成長率が示されている。また同時に公表されたWorld Economic Outlook Database(以下、WEO Database)では全世界の国々の2028年までのGDP成長率、名目金額など詳細な経済指標が網羅されている。

本稿では今年(2023年)及び来年(2024年)の成長率を比較し、また前回7月の経済見通しに対してGDP成長率がどのように修正されたかを検証する。そして2021年から2025年の5年間の成長率の推移を比較する。さらに過去6回の経済見通し(昨年7月、10月、今年1月、4月、7月及び今回)で今年の成長率がどのように見直されてきたかを精査する。

\*WEO レポート：<https://www.imf.org/external/datamapper/datasets/WEO>

日本語版：

<https://www.imf.org/ja/Publications/WEO/Issues/2023/10/10/world-economic-outlook-october-2023>

WEO Database：<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/weo-database/2023/October>

(今年の世界の成長率は3.0%!)

#### 1. 2023年のGDP成長率(末尾表1-B-2-08参照)

今回10月見通しでは今年の世界の成長率は3.0%とされており、前回7月見通しと同じである。

経済圏別に見るとEU圏の2023年の成長率は0.7%であり、7月の数値から0.2%ダウンしている。またASEAN5カ国は4.6%から4.2%に下方修正され、中東・中央アジア諸国も2.5%から2.0%に引き下げられている。ロシアのウクライナ侵攻によりエネルギー価格が不安定なため成長率が鈍化しているようである。

国別では今年の成長率は米国2.1%、日本2.0%、ドイツ▲0.5%、英国0.5%、ロシア2.2%、中国5.0%、インド6.3%である。インドの成長率は世界で最も高く、世界平均(3.0%)の2

倍以上である。中国はコロナ禍以前に二桁の高い成長を続け、その後急激に減速したが、それでも世界平均を上回っており、インドと中国が世界の成長をけん引している。これに対してヨーロッパ諸国は上記の通り EU 圏の成長率が 1%を下回り、ドイツは主要国の中で唯一マイナス成長と見込まれている。

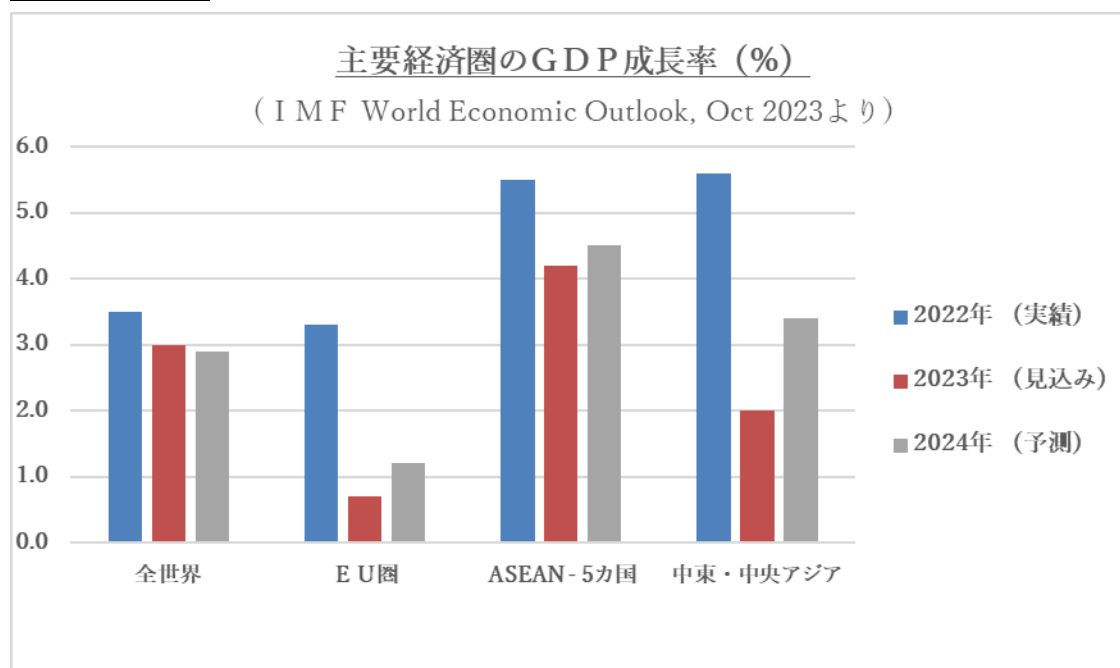
産油国のサウジアラビアは0.8%であり、前回7月見通しの1.9%から下方修正されている。同じ産油国のロシアは逆に7月見通しの1.5%が2.2%に上方修正されている。ロシアは欧米先進国から経済制裁を受けているが、中国、インドが同国原油を安値で輸入するなどロシア経済への影響力はさほど大きくないのが現実のようである。

## 2. 2022年～2024年のGDP成長率(末尾表 1-B-2-11 参照)

主要な経済圏と国家の昨年(実績見込み)、今年(予測)及び来年(予測)のGDP成長率の推移を見ると以下の通りである。

(世界経済は3年連続で鈍化！)

### 2-1 主要経済圏



全世界の3年間の成長率は3.5% (2022年) →3.0% (2023年) →2.9% (2024年)と予測されている。コロナ禍からは回復する一方、ウクライナ危機が長引き景気の下振れ要因が強く、世界のGDP成長率は3年連続して減速する見込みである。

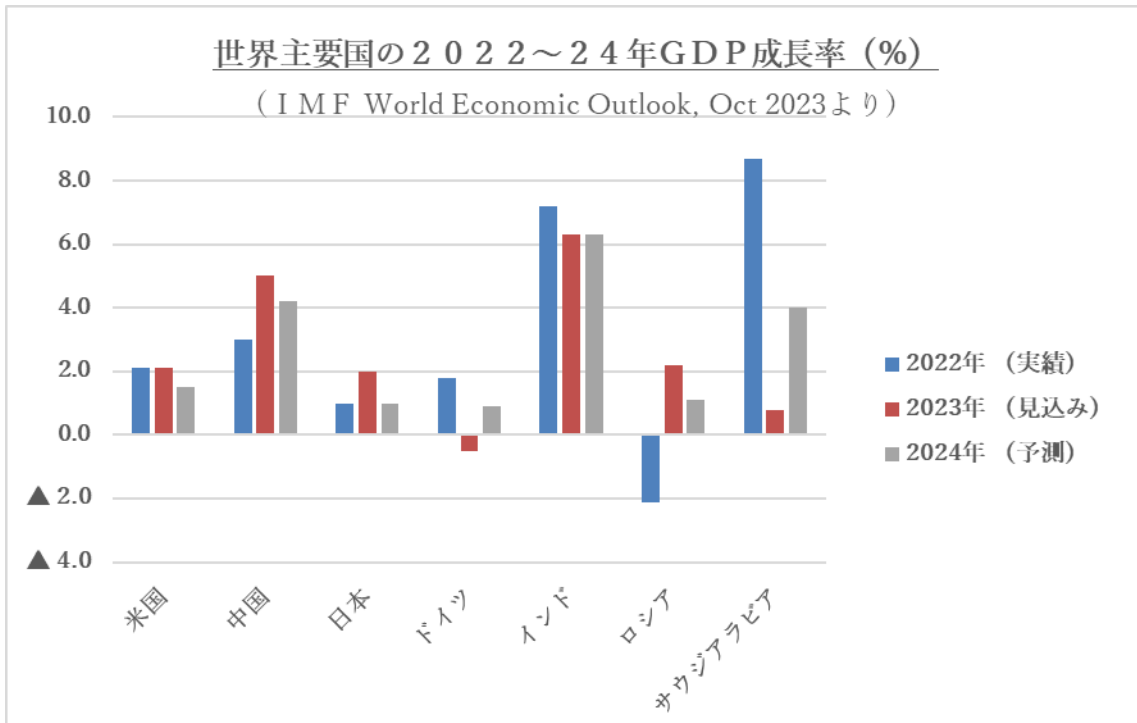
ウクライナ危機の影響を最も大きく受けるのはEU圏である。3年間の成長率は3.3% →0.7% →1.2%とされ、今年は3年間の中で成長率が大きく落ち込んでおり、他の経済圏と比べても際立って低い。ASEAN5カ国の成長率は5.5% →4.2% →4.5%であり、世界平均を上回る成長率を維持する見通しである。

産油・ガス国が多い中東及び中央アジアの成長率はエネルギー価格の騰落に大きく影響さ

れ、3年間の成長率の推移は 5.6%→2.0%→3.4%と見込まれている。昨年はエネルギー価格高騰の恩恵が大きかったが、今年は世界平均を下回り逆に来年は世界平均を上回る成長率で推移する見通しである。

(中国を上回る高い成長率を続けるインド！)

## 2-2 主要国



米国の昨年の成長率は 2.1%であり、今年も同じ成長率が見込まれているが、来年は 1.5%に鈍化する見通しである。日本の成長率は 1.0%→2.0%→1.0%と推移する見込みである。日本と同様先進工業国であるドイツの成長率は 1.8%→▲0.5%→0.9%であり、今年はマイナス成長に落ち込み、来年も低成長にとどまると予測されている。エネルギー輸入価格が高騰する一方、世界景気の低迷で輸出が伸び悩んでいることが低成長の大きな要因と考えられる。

中国は 3.0%→5.0%→4.2%であり、昨年から今年にかけて成長が回復するものの、その勢いは持続せず来年は 4%台前半にとどまる見込みである。コロナ禍以前は二桁台の成長率を誇っていたことに比べ中国の成長率は伸び悩んでいる。これに対してインドの成長率は 7.2%→6.3%→6.3%であり、世界平均を大きく上回る 6%以上の高い成長を維持するものと推測されている。

中国、インドなどと共に新興経済国 BRICS の一翼を担ってきたロシアの成長率は対照的な様相を呈している。昨年(2022年)は一昨年引き続くマイナス成長(▲2.1%)であり、今年(2.2%)、来年(1.1%)はプラスながらも低い成長率にとどまると予測されている。ウクライナ紛争は未だ終息の見通しが立っておらず、ロシアの今年の成長率がさらに下がる可能性は否定できない。

産油国サウジアラビアの3カ年の成長率は8.7%→0.8%→4.0%であり年度による振幅が激しい。昨年は原油価格高騰の恩恵を受けたが、今年及び来年は世界景気の回復が遅れる一方インフレによる輸入価格の高騰のため、昨年のような高い成長率は期待できないようである。

### 3. 2023年GDP成長率見直しの推移

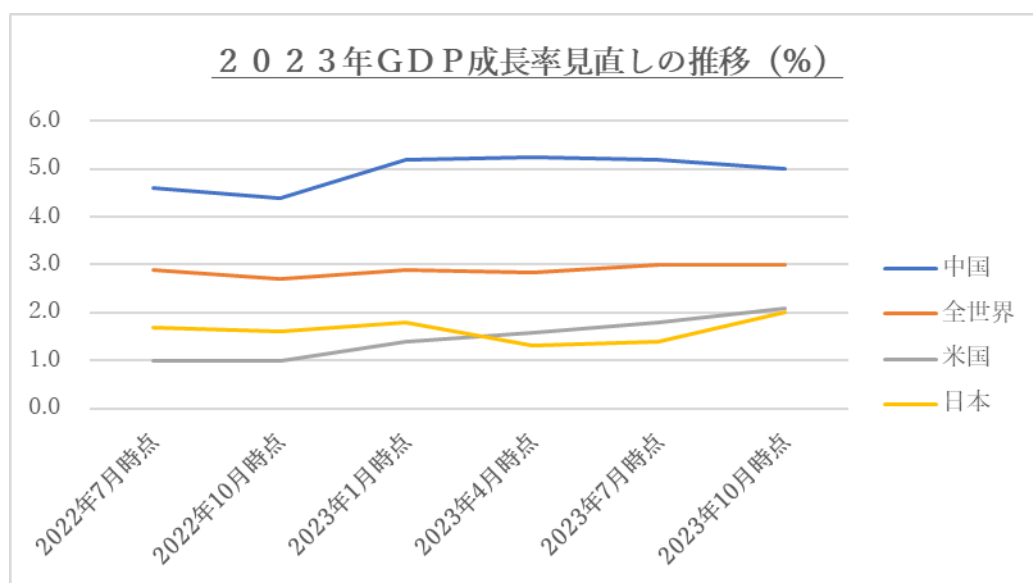
IMFの世界経済見通しは毎年4月、10月に全世界200弱の国について成長率の見直しが行われ、さらに1月及び7月には主要な国と経済圏の成長率が発表されている。主要な国と経済圏については3カ月ごとに検証されていることになる。

最近の特徴はコロナ禍、ウクライナ紛争、エネルギー価格の高騰など国際経済を取り巻く環境の不透明感が増していることである。このためIMFの成長率見直しも3カ月ごとに大きく変動するという特徴が見られる。

ここでは直近6回(2022年7月、10月、2023年1月、4月、7月及び今回10月)のレポートで今年の成長率がどのように見直されたかを検証する。

(5%前後で推移する中国、1%台後半にとどまる日本と米国！)

#### 3-1 全世界及び日本、米国、中国



直近6回のIMF経済見通しにおける2023年の世界のGDP成長率は2022年7月見通しでは2.9%であったが、その後10月から今年4月までの3回は2.7%→2.9%→2.8%と微修正され、今年7月及び今回(10月)は3.0%とわずかながらアップしている。

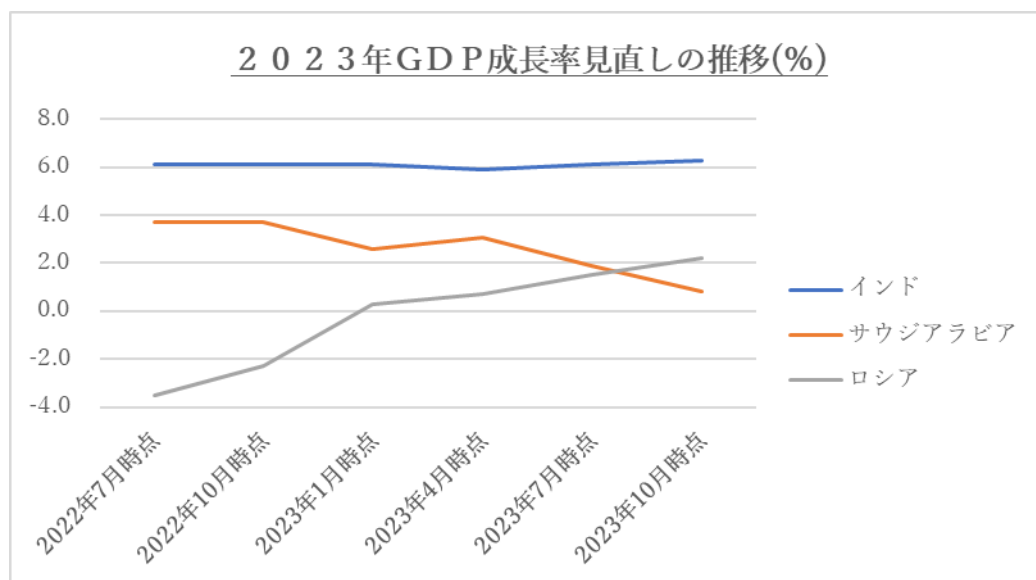
米国は1.0%→1.0%→1.4%→1.6%→1.8%→2.1%と連続して上方修正されている。中国の場合は、4.6%→4.4%→5.2%→5.2%→5.2%→5.0%であり、今年1月以降は5%台に見直されている。世界に先駆けて景気回復に向かっていると評価されたものと見られる。

日本の2023年成長率の過去1年間の数値は1.7%→1.6%→1.8%→1.3%→1.4%→2.0%

と見直されている。昨年7月から今年1月までの3回は成長率が1%台後半に維持され、その後今年4月及び7月は1%台前半の低めに見直されたが、今回10月は1.0%に見直している。エネルギー価格の急騰が日本経済のアキレス腱となっていたが、日本経済がそれを乗り越えて回復基調に入ったと考えられる。

(OPEC+の盟主サウジとロシアに明暗、インドは6%の高度成長！)

### 3-2 ロシアとサウジアラビアとインド



サウジアラビアとロシアは米国と並ぶ三大産油国であり、両国は OPEC+(プラス)の盟主として最近では協調減産体制により石油価格を下支えしている。昨年7月時点では2023年の成長率見通しはサウジアラビア 3.7%、ロシア▲3.5%であり、同年2月のウクライナ紛争爆発が両国の明暗を分けた。

紛争により石油価格が急騰したことは輸出国のサウジアラビアに大きな追い風となった一方、紛争当事者のロシアは制裁の影響を受け経済に深刻な懸念が生まれ、10月の予測見通しでも両国の成長率予測はほぼ同じ水準で維持された。しかし今年1月はロシアの成長率が0.3%とプラスに見直された一方、サウジアラビアの成長率は2.6%に下方修正され、両者の格差は縮小した。7月の両国の成長率予測はサウジアラビア 1.9%、ロシア 1.5%に見直され、さらに今回10月見通しでは今年の両国の成長率はサウジアラビア 0.8%、ロシア 2.2%に修正され両国の成長率は逆転している。

米国を中心とする先進国による経済制裁が続いているにも関わらずロシアの成長率が上方修正されていることは、インド、中国をはじめとするグローバルサウスの国々が欧米先進国と共同歩調を取らず、或いはこれをチャンスにロシアから安価なエネルギーを輸入し続けている現状を反映したものとみられる。

アジアの経済大国であるインドの2023年のGDP成長率予測の推移は、6.1%(2022年7月時点)→6.1%(10月)→6.1%(本年1月)→5.9%(4月)→6.1%(7月)→6.3%(10月)である。

昨年7月以降ほぼ6%前後で推移しており、インドの今年の成長率は世界平均の5.0%を上回る見通しである。

(日本はドイツに追い抜かれ世界4位に！)

#### 4. 2023年の名目GDP(末尾表1-B-2-12参照)

2023年の世界の名目GDP総額は104兆4,764億ドルと予測される。これを国別に見ると、名目GDPが世界で最も多いのは米国の26兆9,496億ドルであり世界全体の4分の1(25.8%)を占める。米国に次いで多いのは中国で、同国の名目GDPは17兆7,009億ドル(16.9%)である。両国を合わせると全世界の名目GDPの43%を占めている。因みに中国のGDPはEU全体(総額18兆ドル)とほぼ同額である。

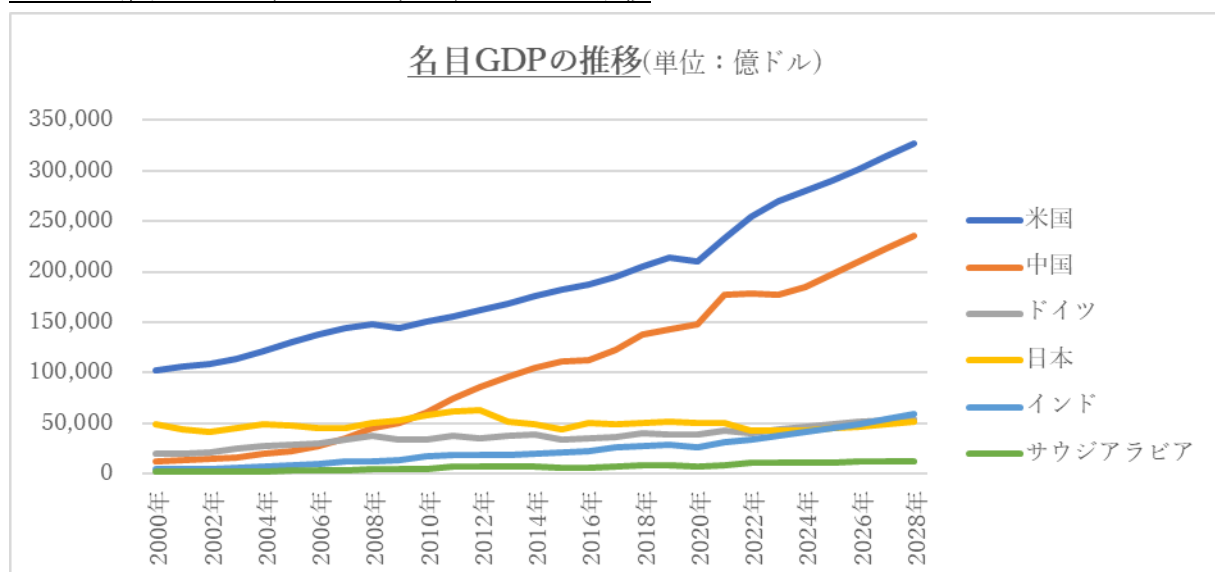
世界第3位のGDP大国はドイツ(4兆4,298億ドル)であり、日本の名目GDP(4兆2,309億ドル)をわずかながら上回っている。次項で述べる通り日本の名目GDPは2000年以前から長い間、米国に次ぐ世界2位であったが、2010年に中国に追い越され、今回2023年にはドイツにも追い越されて世界4位になっている。因みにインドが急速にGDP大国に成長しつつあり、現在世界第5位の3兆7,322億ドルであるが、2026年に日本を追い越し、さらに2027年にはドイツもしのぎ世界3位になるとIMFは予測している。

名目GDPの世界5位から10位までは英国、フランス、イタリア、ブラジル、カナダでありGDP額は2兆ドルを超えている。これら10カ国のGDP合計額は全世界の3分の2に達しており、世界の富は一部の国家に偏在していることがわかる。

11位以下にはロシア、メキシコ、韓国、オーストラリア、スペインと続きインドネシアは16位、トルコ17位、オランダ18位、サウジアラビア19位(1兆694億ドル)であり、20位以下の各国は1兆ドル未満にとどまっている。

(急速に伸びる米国と中国、停滞する日本！)

#### 5. 主要国の2000年～2028年の名目GDPの推移



IMF データベースによれば 2000 年から 2028 年までの主要 5 カ国(米国、中国、ドイツ、日本、インド)の名目 GDP の推移は以下の通りである。

2000 年の名目 GDP が世界で最も多かったのは米国であり、唯一 10 兆ドルを超えていた。米国に次ぐ GDP 大国は日本で米国の 2 分の 1 弱の 5 兆ドルであった。ドイツは日本の半分以上の 2 兆ドル弱であった。中国及びインドの GDP はそれぞれ 1.2 兆ドル、5 千億ドルであり、日本との格差は非常に大きかった。

その後、米国は現在まで GDP 世界一を続けている。米国を凌ぐスピードで GDP を拡大してきたのが中国であり、2005 年には 2 倍、2010 年には 5 倍、2017 年には 10 倍に膨張、2023 年の GDP は 2000 年の 15 倍に達している。この間の米国の伸び率は 2.8 倍であったことから、米中両国の GDP 格差は大きく縮まった。

これに対して日本の GDP の伸びは小さく 2012 年の 6.3 兆ドルをピークに、それ以降はむしろ GDP が縮小、2023 年の GDP は 4.2 兆ドルにとどまり 2000 年の GDP を下回っている。この結果、2010 年には中国に、2023 年にはドイツにも追い抜かれる状況であり、さらに 2026 年にはインドが日本を凌ぐと予測されている。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; [maedal@jcom.home.ne.jp](mailto:maedal@jcom.home.ne.jp)

**MENAと世界主要国の GDP 実質成長率(2023-24年)**

国名	2023年10月見通し(今回)			2023年7月見通し(前回)		前回/今回比較	
	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)	増減	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)
全世界	3.0	2.9	▲ 0.1	3.0	3.0	0.0	▲ 0.1
米国	2.1	1.5	▲ 0.6	1.8	1.0	0.3	0.5
EU圏	0.7	1.2	0.5	0.9	1.5	▲ 0.2	▲ 0.3
ドイツ	▲ 0.5	0.9	1.4	▲ 0.3	1.3	▲ 0.2	▲ 0.4
日本	2.0	1.0	▲ 1.0	1.4	1.0	0.6	0.0
英国	0.5	0.6	0.1	0.4	1.0	0.1	▲ 0.4
中国	5.0	4.2	▲ 0.8	5.2	4.5	▲ 0.2	▲ 0.3
インド	6.3	6.3	0.0	6.1	6.3	0.2	0.0
ASEAN-5 ヶ国	4.2	4.5	0.3	4.6	4.5	▲ 0.4	0.0
ロシア	2.2	1.1	▲ 1.1	1.5	1.3	0.7	▲ 0.2
中東・中央アジア諸国	2.0	3.4	1.4	2.5	3.2	▲ 0.5	0.2
サウジアラビア	0.8	4.0	3.2	1.9	2.8	▲ 1.1	1.2



**GDP 対前年伸び率(%、2023年10月値)**

	2022年 (実績)	2023年 (見込み)	2024年 (予測)	2023/2022 年	2024/2023 年
全世界	3.5	3.0	2.9	▲ 0.5	▲ 0.1
米国	2.1	2.1	1.5	0.0	▲ 0.6
E U圏	3.3	0.7	1.2	▲ 2.6	0.5
ドイツ	1.8	▲ 0.5	0.9	▲ 2.3	1.4
日本	1.0	2.0	1.0	1.0	▲ 1.0
英国	4.1	0.5	0.6	▲ 3.6	0.1
中国	3.0	5.0	4.2	2.0	▲ 0.8
インド	7.2	6.3	6.3	▲ 0.9	0.0
ASEAN-5 ヶ国	5.5	4.2	4.5	▲ 1.3	0.3
ロシア	▲ 2.1	2.2	1.1	4.3	▲ 1.1
中東・中央アジア諸国	5.6	2.0	3.4	▲ 3.6	1.4
サウジアラビア	8.7	0.8	4.0	▲ 7.9	3.2

**世界上位 20 力国と中東主要国の GDP (2023 年、at current price)**

順位	国名		10 億ドル	%
1	United States	米国	26,949.6	25.8%
2	China	中国	17,700.9	16.9%
3	Germany	ドイツ	4,429.8	4.2%
4	Japan	日本	4,230.9	4.0%
5	India	インド	3,732.2	3.6%
6	United Kingdom	英国	3,332.1	3.2%
7	France	フランス	3,049.0	2.9%
8	Italy	イタリア	2,186.1	2.1%
9	Brazil	ブラジル	2,126.8	2.0%
10	Canada	カナダ	2,117.8	2.0%
11	Russia	ロシア	1,862.5	1.8%
12	Mexico	メキシコ	1,811.5	1.7%
13	Korea	韓国	1,709.2	1.6%
14	Australia	オーストラリア	1,687.7	1.6%
15	Spain	スペイン	1,582.1	1.5%
16	Indonesia	インドネシア	1,417.4	1.4%
17	Türkiye	トルコ	1,154.6	1.1%
18	Netherlands	オランダ	1,092.7	1.0%
19	Saudi Arabia	サウジアラビア	1,069.4	1.0%
20	Switzerland	スイス	905.7	0.9%
29	Israel	イスラエル	539.2	0.5%
33	UAE	UAE	499.0	0.5%
40	Egypt	エジプト	387.1	0.4%
42	Iran	イラン	368.0	0.4%
49	Iraq	イラク	267.9	0.3%
		全世界	104,476.4	100.0%
		(G7)	46,295.3	44.3%
		(EU)	18,351.1	17.6%
		(ASEAN-5)	3,293.5	3.2%
		(ME & Central Asia)	4,698.2	4.5%